

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

令和 8 年 6 月

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	教 授	准 教 授	講 師	助 教	計	基 準 数	うち 理学療法士又は 作業療法士数	助手			
理学療法科	人	人	人	人	人	9 人	9 人	人	30 人	21.8 人	
計	人	人	人	人	人	9 人	9 人	人	30 人	－	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9 割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8 割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	情報科学	4	新井 隆裕	兼任
			11	杵山 哲平	専任
		心理学	15	高尾 卓	兼任
		英語	15	平林 拳	兼任
		コミュニケーション論	15	杵山 哲平	専任
		統計学	15	大岩 照宜	兼任
		保健体育	15	寺島 弘将	兼任
		レクリエーション論	15	熱尾 有加	専任
		社会学	15	山口 宏	兼任
専門基礎 分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学Ⅰ	30	桑原 裕子	兼任
		解剖学Ⅱ	24	清島 大資	兼任
			6	石田 和人	兼任
		体表解剖演習	30	吉安 敏彦	兼任
		生理学Ⅰ	30	坪井 秀夫	兼任
		生理学Ⅱ	30	坪井 秀夫	兼任
		運動学演習Ⅰ	30	櫻井 泰弘	専任
		運動学演習Ⅱ	15	林 尚宜	専任
		人間発達学	15	林 尚宜	専任
		解剖演習	15	奥地 伸城	専任
	疾病と障害の成り 立ち及び回復過程 の促進	公衆衛生学	15	平松 礼司	兼任
		病理学	15	佐藤 恵美子	兼任
		薬理学	15	平松 礼司	兼任
		内科学	15	斎藤 研	兼任
		神経内科学	15	益田 健史	兼任
		整形外科学	15	矢崎 進	兼任
		精神医学	15	益田 健史	兼任
		栄養学	15	太田 侑亜	兼任

専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	救急救命学	12	非常勤講師	兼任
			3	青木 浩代	専任
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション学	15	青木 浩代	専任
		多職種連携論	15	櫻井 泰弘	専任
		社会保障制度論	15	葛谷 桂司	兼任
		総合医療学	1	兼山 美千代	兼任
			2	浅井 恵美子	兼任
			4	田中 敏彦	兼任
			1	百々 加奈子	兼任
			1	諸橋 麻衣子	兼任
			1	西脇 克浩	兼任
			1	大内田 潤子	兼任
			1	檜垣 道隆	兼任
			1	岸田 紀子	兼任
			1	木村 友飛	兼任
			1	鈴木 雄大	兼任
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	1	櫻井 泰弘	専任
			1	小出 悠介	専任
			1	辻 智之	専任
			1	宇治 太孝	専任
			11	奥地 伸城	専任
		病態概論	15	林 尚宜	専任
		理学療法研究法	15	小出 悠介	専任
		理学療法総合演習	6	杵山 哲平	専任
			5	林 尚宜	専任
			6	小出 悠介	専任
			2	辻 智之	専任
			1	奥地 伸城	専任
			4	櫻井 泰弘	専任
			6	宇治 太孝	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	星野 茂	兼任
	理学療法評価学	理学療法評価学	30	辻 智之	専任

専門分野		理学療法評価演習Ⅰ	15	宇治 太孝	専任
		理学療法評価演習Ⅱ	6	寺島 弘将	兼任
			24	熱尾 有加	専任
		理学療法評価演習Ⅲ	30	小出 悠介	専任
	理学療法治療学	運動療法学	15	宇治 太孝	専任
		物理療法学	15	奥地 伸城	専任
		脳血管障害理学療法演習	30	青木 浩代	専任
	理学療法治療学	運動器障害理学療法演習	15	杵山 哲平	専任
			30	辻 智之	専任
		呼吸器障害理学療法学	5	非常勤講師	兼任
			8	非常勤講師	兼任
			2	奥地 伸城	専任
		循環器障害理学療法学	7	大竹 浩史	兼任
			8	伊東 由教	兼任
		代謝障害理学療法学	4	小関 裕二	兼任
			11	林 尚宜	専任
		発達支援理学療法学	15	岡田 大治	兼任
		老年期理学療法学	15	奥地 伸城	専任
		スポーツ理学療法演習	7	寺島 弘将	兼任
			8	高塚 将人	兼任
		日常生活活動学演習Ⅰ	15	小出 悠介	専任
		日常生活活動学演習Ⅱ	15	小出 悠介	専任
		義肢装具演習	4	奥地 伸城	専任
			26	北嶋 應司	兼任
		徒手理学療法演習	10	加古 誠人	兼任
			14	田中 和彦	兼任
			6	野々村 諒太	兼任
		障害スポーツ演習	8	林 尚宜	専任
			7	熱尾 有加	専任
	地域理学療法学	生活環境学	15	熱尾 有加	専任
		地域理学療法学	15	宇治 太孝	専任
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	23	専任教員	専任

		臨床実習Ⅱ	68	専任教員	専任
		臨床実習Ⅲ	360	専任教員	専任
		臨床実習セミナーⅠ	23	専任教員	専任
		臨床実習セミナーⅡ	10	宇治 太孝	専任
			4	奥地 伸城	専任
			4	辻 智之	専任
			1	林 尚宜	専任
			4	杵山 哲平	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3

	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
理学療法の見学	1 年	リハビリテーション学	1 年前期
		コミュニケーション論	
通所・訪問リハビリテーションの見学	1 年	理学療法概論	2 年後期
		地域理学療法学	
理学療法評価の実践	2 年後期	理学療法評価学	1 年後期
		理学療法評価演習Ⅰ	1 年後期
		理学療法評価演習Ⅱ	2 年前期
		理学療法評価演習Ⅲ	2 年前期
		臨床実習セミナーⅠ	2 年後期
理学療法治療の実践	3 年	運動療法学	2 年前期
		脳血管理学療法演習	
		運動器障害理学療法演習	
		呼吸器障害理学療法学	2 年後期
		循環器障害理学療法学	
		代謝障害理学療法学	
		発達支援理学療法学	
		老年期理学療法学	2 年前期
		スポーツ理学療法演習	2 年後期
		日常生活活動学演習Ⅱ	2 年前期
		臨床実習セミナーⅡ	3 年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	東海医療科学専門学校 自己点検・自己評価委員会
委員名（委員長）	横井 英行
組織の開催頻度	1年に1～2回開催
組織の取り組み内容	・自己点検・自己評価の実施、進捗管理
	・自己点検・自己評価結果の検証、最終評価
	1年に1～2回開催
	・その他
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： https://www.tokai-med.ac.jp/kagaku/disclosure/ ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
○	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	理学療法科 学科会議
	委員構成等	学科長、専任教員
	改善の仕組みの実際	年度末に全シラバスを確認し適宜修正を依頼する。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

学校関係者評価委員会を開催し、委員会の提言や意見をフィードバックし改善につなげている。リハビリテーション教育評価機構による第三者評価を受審し、2回連続で適格と認定されている。